JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME

レポート

Internationale Automobil Austellung 2011

第 64 回 IAA フランクフルト自動車ショーより
通勤用シングルシーター EV の可能性

解説・藤本 彰

9月13日から開催されたIAA 2011（フランクフルト自動車ショー）は、幕張メッセの4.5倍広い21万平米のメッセ会場に75社900台を集めて25日に閉幕した。端的に言えば金持ちドイツと貧乏な日本の企業格差が顕著なショーだった。未曾有の災害や長引く円高傾向はその大きな要因だが、参加した日本企業各社にはヨーロッパ勢や韓国車相手にもう少し見栄を張ってブランドを守って欲しい印象だった。

スタイリング・トレンドに明確な傾向は見えなかったが、脱化石燃料社会への対策は各社それぞれに提案ないしは実用化の動きを提示していた。その中でシングルシーターEVコンセプトはここ最近の興味深いソリューション・アイテムである。

フォルクスワーゲンはこのところアウトバーンを走行可能な小型軽量のEVの研究を進めている。2011フランクフルトでは“NILS”と呼ばれるシングルシーターEVを公開した。ドイツ連邦政府の交通建設開発省が支援したこのプロジェクトは、近い将来に普及させるべきコミューターを想定している。統計局の調査によれば通勤者の60%は自家用車に頼っていて、その90%は1人乗車であり、自宅から職場までの距離は平均25km以内であるという。そこでVWがNILSに求めた性能は航続距離65km、最高速度130km/h。これならドイツの大多数の通勤者にとって新しい移動手段になり得ると判断している。

ボツダムのVWデザインセンターで開発されたボディの素材はメインがアルミ合金、ガルウィングドアはポリカーボネイト。車重わずかに460kg。肝心の空力データは公表されていないが、充分に吟味されたことはサイクルフェンダーに覆われた細めのタイアからも理解できる。斬新なスタイリングとはいえまいが、近い将来の高速コミューターとして実用に耐えるデザインには違いない。

VWは何年も前から「1リッターで100km走行」を目標に高速コミューターの研究を続けていて、前回のショーではカーボンコンポジットのタンデム2人乗りの“L1”コンセプトを出展していた。リッター当り72.5km！　このほか“UP！”コンセプト・シリーズを7タイプも出展、GTやクロスオーヴァーなどのほかにe-UP！コンセプトで小型4シーターEVの可能性も提示した。

いっぽう今回から独立パヴィリオンを構えたアウディはカーボンファイバーボディの1＋1コミューター“Urban”コンセプトを披露した。パッセンジャーはドライヴァーより300mm後方にオフセットして座る。ドアごとスライドするキャノピーを持つクーペとロードスターの2車型を提案。最高時速をリミッターで100km/hに抑えて航続距離を70kmに伸ばしている。質感と性能を重視するアウディにしては突貫工事を思わせるデザインでありスタイリングだったが・・・・。

オペルはタンデム2シーターの四輪バイクとも言うべきEV“RAK e”（ラック・イー）を出展した。若者向けの派手なスタイリングが特徴的。前傾して開閉するキャノピーはステアリング・ホイールと連動して乗降性に寄与している。いっぽうフォードはフォーカスEVの完成度の高さを披露したが、マイクロEVに関する展示はなかった。代わってPHVクーペ“EVOS”が注目されていた。変則的なウィングドアが上がると、赤い運転席が目に付き、運転者のあらゆるデータがコンピューターで管理され、快適なドライヴィングを楽しめるという未来のクルーザーを指向したコンセプトだった。

BMWはしゃれた電動スクーターを提示していたが、注目されたのは明日の3シリーズ“i3”コンセプト。次世代モビリティを担うサブブランド“BMW i”からの提案である。4人乗りのコンパクトEVで、リチウムイオン電池とモーターのほかに小型ガソリンエンジンを備えているから、シリーズ・ハイブリッドの一種。実現性は高そう。

盟主ダイムラーベンツはサービス精神旺盛なゼッチェ会長がヴァーチャル・エレベーターに見立てた巨大スクリーンの陰から登場。自動車誕生125周年の歴史を謳い上げ、伝統と革新のダイムラーをアピールした。超小型EVはスマート・ブランドに任せ、燃料電池車の“F 125！”はじめ、BクラスE-CELLなど、上級車へのエコ化にも開発費を投じている。2月にボクスターのEV 仕様を公開したポルシェは、新型911の披露に全力を挙げた。新旧のボディを並べて、外見は同じようでも中身は90%違うのだと高性能を誇っていた。グリーン・ポルシェが市販されるのは2年後らしい。

その他のヨーロッパ勢ではフランスの3ブランドが活発だったが、ここではルノーのタンデム2シーターEV“Twizy”を紹介する。2011年末からヨーロッパで市販される見込み。日産も同じタイプを導入。横浜市、青森県、福岡県と共同で公道走行実証実験を開始する。

日本勢ではレクサスがGS450h（ハイブリッド）、ホンダが新型シビック5ドアを初披露したが、ヨーロッパ勢の華やかさの影に隠れて注目度はいまひとつだった。いっぽう韓国の話題作ヒョンデーi30はドイツ企業が気にしているようす。VWのヴィンターコルン会長が実に細かくチェックしている動画がYou Tubeに流れている。

VW NILS: 3040×1390×1200mm, 460kg, Max 130km/h, Cruising Range 65km

VW L1 (2009 IAA): 380kg, Diesel Hybrid

Audi Urban Concept: 3219×1678×1189mm, 480kg, Cruising Range 73km

Opel RAK e: L3000×H1190mm, 350kg, EV, Cruising Range 120km

Mercedes-Benz F 125!:
FCEV, In-Wheel Motor, Wing Door

New Porsche 911

BMW Motorrad CONCEPT e:
Cruising Range 100km

BMW i3 Concept: 3845×2011×1537mm, 1250kg,
EV, Cruising Range 130-160km

Smart Forvision:
Solar-Cell on Roof, Plastic Wheel

Renault Twizy: 2320×1191×1461mm, 450kg,
Max 75km/h, Cruising Range 100km